

様式第1号

事後評価シート

県土整備部

| 番号 | 事業名 箇所名 | 市町村名 | 事業概要 | 事業期間 | | | 事業費 (百万円) | 対象 理由 | 担当課 |
|----|-----------------------------------|------|--------------------------------------|------|-----------|----|--------------|----------|-------|
| | | | | 着手 | ※1 再評価 | 完成 | | | |
| 1 | 宮崎駅西口駅前広場 再整備事業 (宮崎駅西口駅前広場) | 宮崎市 | 広場舗装、ロータリー舗装、通路屋根設置、照明灯設置、案内板設置、植栽設置 | H31 | | R2 | 930 | ① | 都市計画課 |

事後評価の結果 ※2

【事業の目的】

「宮崎の陸の玄関口」である宮崎駅前広場は鉄道、バスなどの交通結節点としての機能はもちろんのこと、人々の交流の場として、また人の流れを宮崎市中心市街地へつなぐ役割も担っている。しかしながら、近年の郊外型商業施設の出店などにより中心市街地の利用客が減少しており、集客を高めることが喫緊の課題となっていた。

本事業は、駅前広場に「イベント空間」や「にぎわい交流空間」を設けるなど再整備を行うことにより、「アミュプラザみやざき」の開業により生まれる新たなにぎわいを更に創出するとともに、中心市街地への回遊性向上につなげることを目的としている。

なお、再整備に当たっては、学識経験者や県・市関係課のほか、交通事業者、地元商店街関係者などで構成する「宮崎駅西口広場再整備検討委員会」を設置しており、当委員会で策定された基本計画に基づき整備を進めている。

【事業効果の発現状況】

- ・市道接続部の閉鎖やタクシーの進入・退出口の集約、バス案内・待合機能の強化により、歩行者の安全性・快適性の確保及びバス利用者の利便性向上が図られた。

- ・整備後の駅前広場では、イベント空間において様々なイベントが開催されており、また、にぎわい・交流空間ではベンチ等広場でくつろぐ利用者も多く、新たなにぎわいが創出されている。その効果の一つとして、宮崎駅西口前の通行者が整備前と比較して増加傾向となっている。また、本整備に加え、民間による再開発や駅周辺とまちなかを結ぶグリーンスローモビリティ（ぐるっぴー）の運行など、まちなかのにぎわいと回遊性の向上につながる取り組みが進められている。グリーンスローモビリティの1年あたりの利用者数についても運行開始の令和2年から令和6年にかけて増加傾向となっている。

【事業による環境の変化や環境保全】

- ・宮崎市の定めるガイドラインにのっとり、工作物等の色彩やデザイン等、周辺施設との調和に配慮した整備を行った。

【施設の維持管理状況】

適正に維持管理されており、特に問題はない。

(維持管理状況)

沿道修景業者や地メンテ業者にて日常の維持管理対応。

【今後の事業評価の必要性】

今回の事後評価より、所定の効果を発現していることがわかるため、更なる事後評価の必要性はない。

【改善措置の必要性】

駅周辺の通行者増加や中心市街地の回遊性向上等十分な効果が得られており、今後の改善措置の必要性はない。

【同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性】

特になし。

| 総合評価 | 特記事項 |
|-------------|-------|
| 事業効果が認められる。 | 特になし。 |

(対象理由)

①全体事業費が基準額以上であり、かつ事業完了後一定期間が経過した事業

②再度、事後評価の必要があると判断した事業

※1 再評価の実施年度については、直近のものを記載すること。

※2 事後評価の際には、出来る限り客観的な数値を記載すること。